



和蘭産物圖考 二

ル 2  
3403  
2





142  
3403  
2



和蘭産の司略長一之二

勢州 藤元良校補



上古の制衣造宏小工に一書記考七所あり是む  
かより天下地七奇考の事也

○一亜細亞洲巴心考實城

瑟彌辣米德王后考都小城考や創造考之城の  
形考矩方考每方考に長考九十里考周圍考二百里  
城の門考一百考處考あり門考之考浄銅考と考造城考の

重方圖考  
卷之二



たごさるの十九丈表いしよ城を成樓上も園固  
樹木ありてもろくの景色とるよ山あり湧流  
て小河のぶらじ造工の者毎戸二十萬人

○二銅人巨像

樂徳海鳶子人像あり銅の巨像を鑄せり高さ  
るす三十丈海口永安置せり舟の楫ありたさ一人を  
圍抱こしあそびの足ハ函石臺を踏て立ち  
跨の下高く廣く大船このみち船小か  
り竹たの予小燈持夜ハ照れ點し  
海船を引ハ港口とまらし船と泊る小島便

なり銅人の内空虚に足より午にゆき  
螺のこごとくをふくしを旋まると梯ありを升  
上て燈を點て造りし者毎日千餘人  
十二年の成

○三利未亞洲厄日多國孟斐府尖形  
高臺

多祿茂王の建る所也地基矩方すこゆる小寺  
里周四里高臺の高さ二百五十一級級ごとく寛さ  
二丈八尺五寸高さ二尺五寸頂上寛く一十人  
容るへし造工の者毎戸二十六萬人



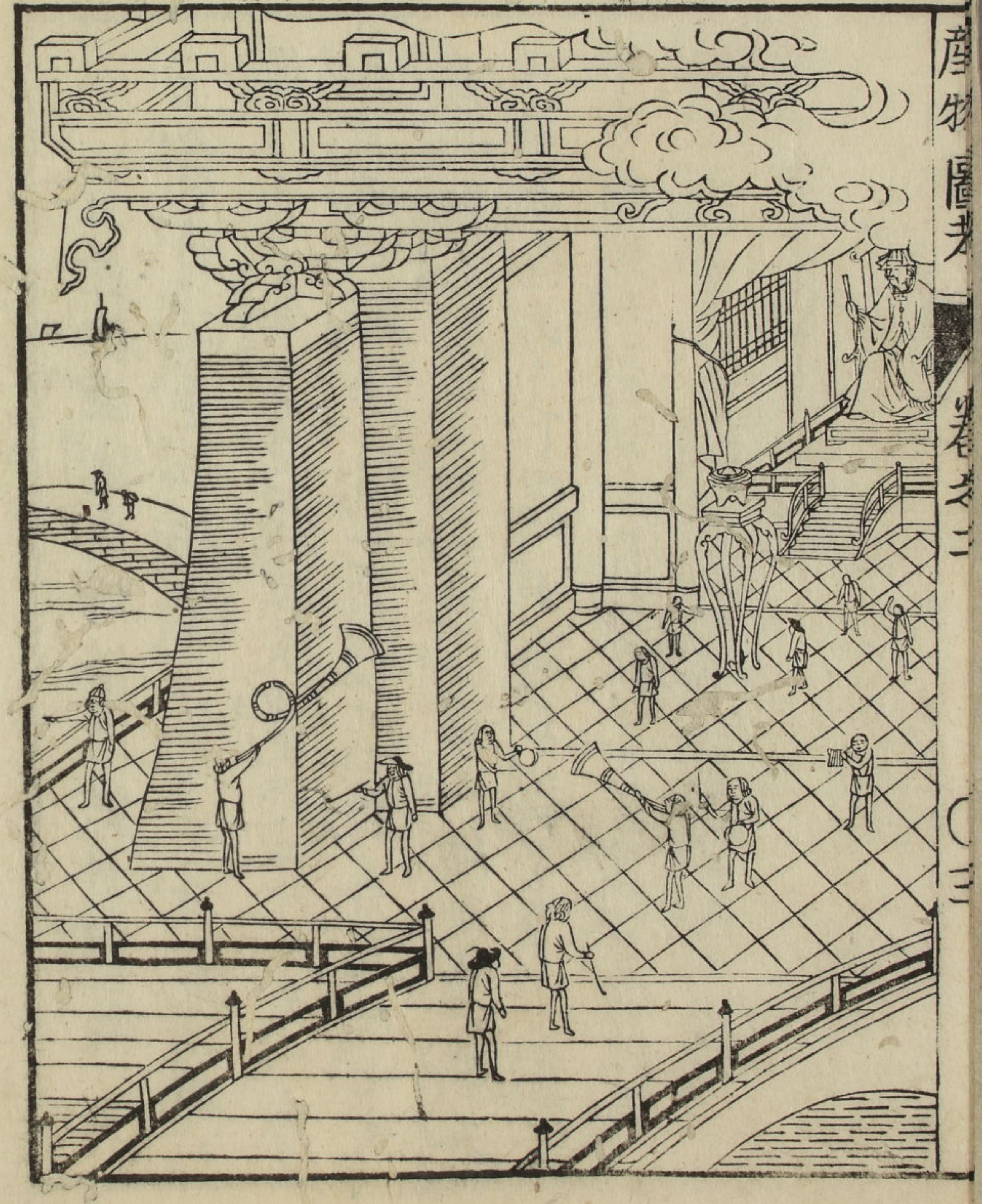
○四亞細亞洲嘉畧省茅索祿王  
 瑩墓

亞爾德彌細王后之夫王為追念之瑩墓  
 建立之墓の下層矩方四面なり各羨さる石  
 の柱二十六株有り穿廊圓拱各寛さ七丈餘  
 内小石梯ありて頂みくる頂上に銅の轎一乘  
 銅の馬二疋茅索祿王の像一尊之奇  
 異なるより書はくしかく一制衣度三崇高  
 三、精工四、質粹純細なる白石とハ牙造  
 将異として王后之十六土と憶念帳にて殂

○五亞細亞洲厄庇俗府供月祠廟

宏麗奇巧基址湖の中にあつて地震小摧れ  
 倒しと免高さ四十四丈寛さ二十一丈内り  
 細白石の柱あり凡一百五十七株各高約七丈  
 廟内細石板あり絶妙精巧の人像を置廟外  
 四面各橋ありて四門小通也橋もつても安見く  
 いて細白石を以てこれを飾る正門の前に羨  
 石とハ精工ある神像を安置を築工の者二  
 百二十年小至りて成







○六歐羅巴洲亞嘉首供木星人形

非文第亞天下の名工技者より山中小て一の最  
堅大の石を取し木星刻人形也  
體宏然小くして細工して巧也廟の中に安置  
其時小議笑者あり工師小語曰設此宏大之躬  
起立寧不衝破廟宇乎工師答曰吾已小也  
を安置し萬不能起也

改羅巴ハ諸国の高船輪漕しつて西に豊饒の北  
なりと貝院幼院病院の三院ありと鯨寡孤獨  
とそ良ふ

○七法羅海島高臺

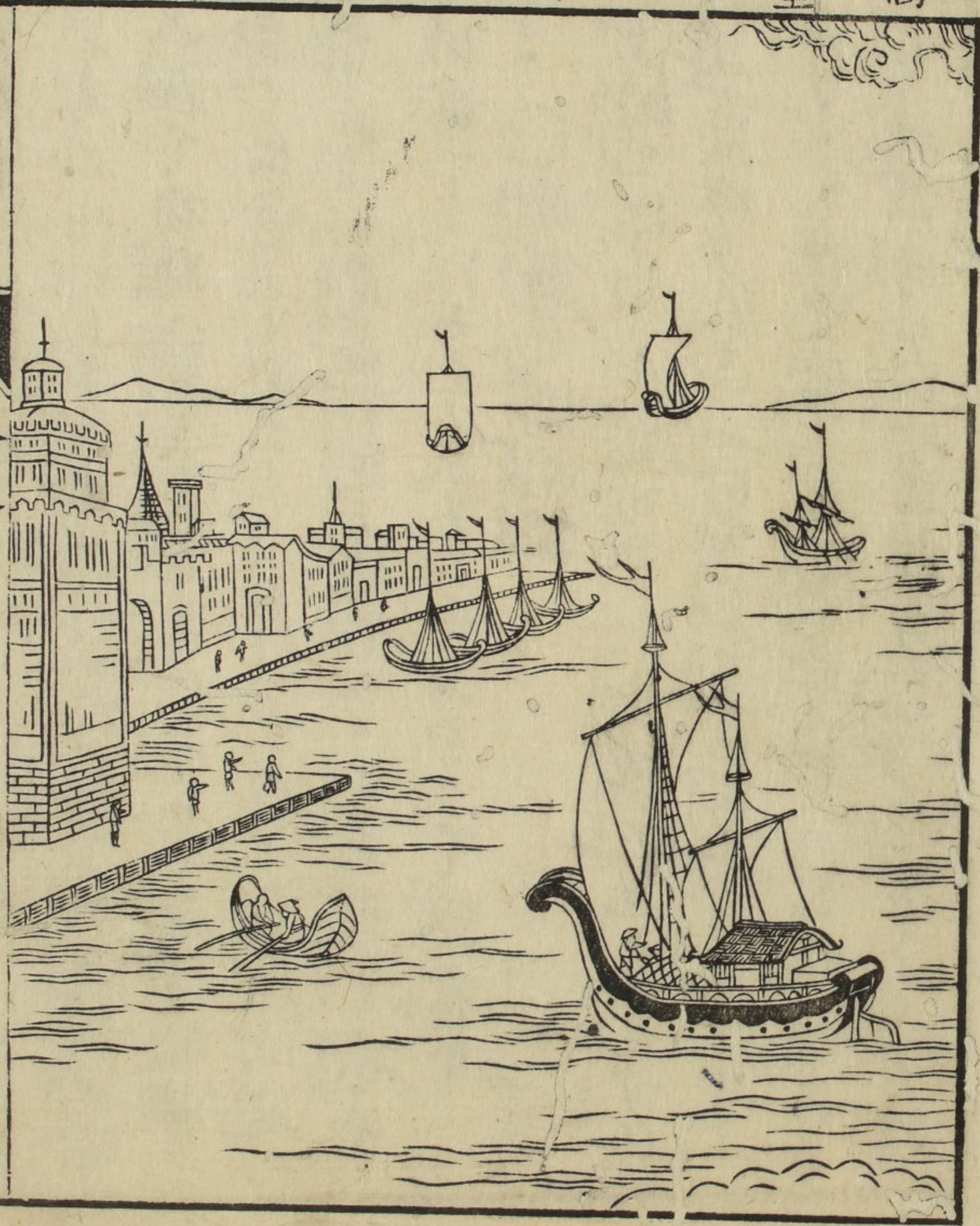
厄日多国多祿茂王の建造する所にして其出宗隆  
かぎりなり高臺は基址丘山より細白石を以築  
成頂上ハわく火炬を置いて夜ハ海艘を照して港  
口の輩取泊を志る所よ海

○古此時七奇の外奇なるもの多と改羅巴洲  
意大理亞國羅瑪府公樂場と營建

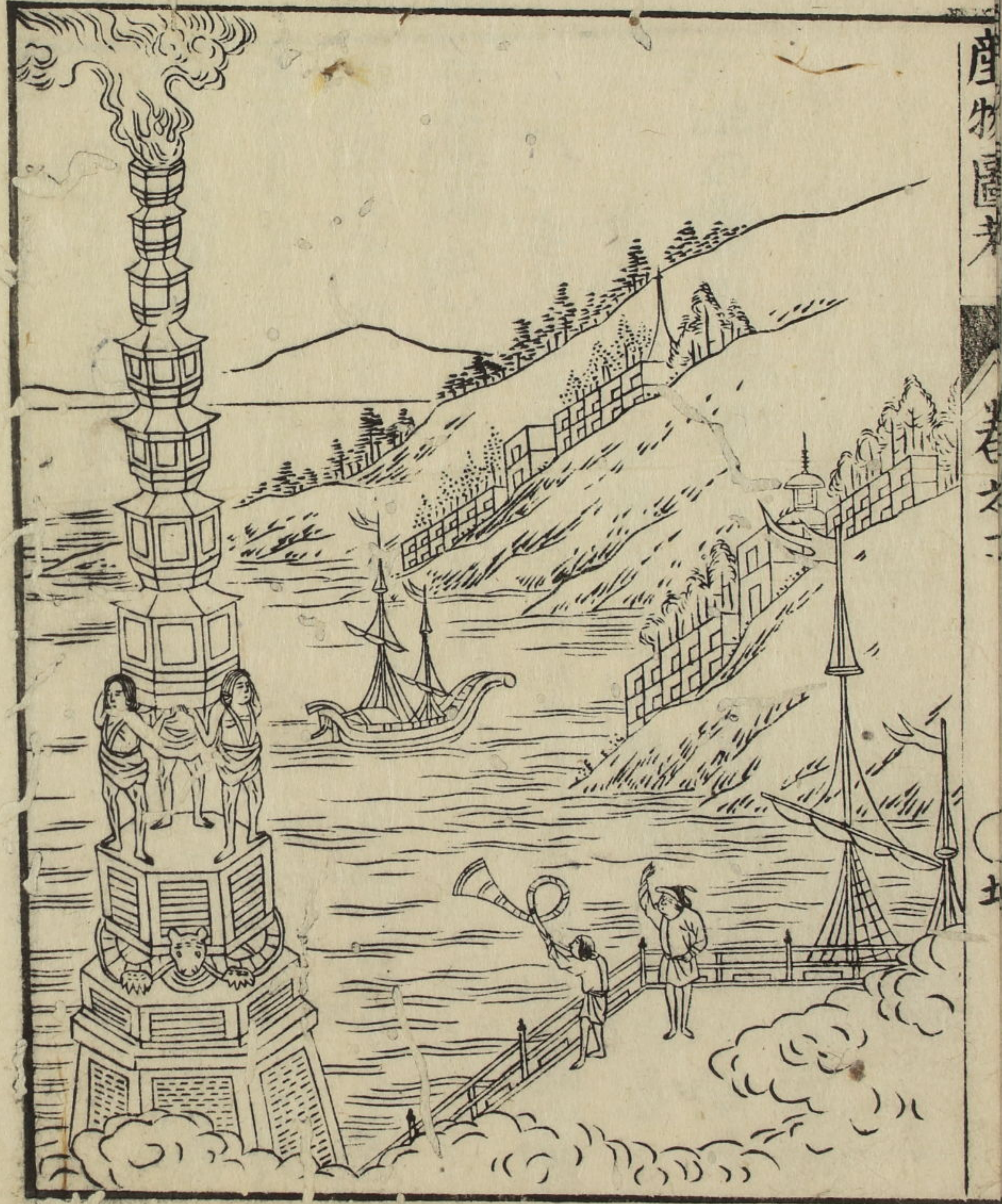
一址の體勢楕圓周圍樓宇異式四層より高き  
二十二丈餘ともいふ所の石を以て築成場の徑  
七十六丈櫺房の下小種々乃猛獸を畜養する



高臺



法羅海鳴



摩物圖考

卷之二

七



もろくの穴あり公樂此時ふれろく即出猛獸場  
 小在て相闘觀者團圓臺小坐を層々相接り  
 高く出るるや數丈と八萬七千人を容座位次  
 ありて間各行走る道路ありてお通り礙す  
 以場一千六百年來より今小多りて現存す

○歐羅巴洲略記

歐羅巴洲三十余国ありて一總王也と云世の  
 及ふ所ありていつは國君長の号六つありて上  
 なるも此を天子といふ教師及びりて稱あるなり  
 是次後帝といふ者あり其次と王といふは次

此三等ハ大將軍將軍諸將の別あるなり  
 是より上なるものハ最貴一云上は義也其法を  
 信するものも貴賤と論ぶるは是れなり  
 是れ夫れ是れハ再嫁せむと妻死すればハ再娶女子不  
 して嗣絶は固小風するとのあり君を適長  
 といふ則ち是れ立若は嗣定まらざるは國の  
 片民嗣小當べき者を以て名付しを以て献す  
 是れすむる所の人なり者と立て君ありすは  
 も亦かくの如く教能一官は授こやをなすは  
 人物風俗方に是れありて殊なり東北の人を



身のたけ長方中て色黒く髪短く西南の  
 人と同じかす其言多法ごりたも古今  
 雅俗のこくれり文字の體制衣象籀の如  
 ことあり行草乃こりたあり字の法も亦  
 音韻詞章の科ありそ餘ハ天文地理曆象  
 算教及方術技藝の小ふ至り皆ありすと  
 りありなし其冠服の制も亦同じかす冠み  
 な金玉を以飾しな一新主位に即ハ是ふ  
 心服すまをり相傳て國公やなす也音  
 樂や系あり管あり攻伐ハ吹貝声鼓幡旗

ありておのく國を制彼こりた中を統乃制ハ天下  
 に甲せり

○波爾杜瓦爾畧記

波爾杜瓦爾の國民物ハ饒兵馬強盛にそそ  
 風俗伊斯把你垂や同一始そ王の妃者伊斯把  
 你垂王の女也王死するゆへに妃を本國に歸す  
 國の人々懷妊のこりたをきて退て是を止太子  
 出生する小及て是とまて王や王平二十して  
 允す子なりしつて前の王地弟出家しそ修道  
 者とお久く王や王娶す子なりそ女姪と

唐物圖考 卷之二 七



心て嗣しす乃政事とせむぬ女姪子あり佛教  
 と崇信す人事と棄絶法をめぐりて國人を勸  
 てその法を教むる子も亦厭俗して道を邏馬国  
 へ修行す國民は君の事を患て王を教化し  
 せし子と誠曰天より聖国を以るに與る國を棄る  
 事とせ天と棄る也國人逆を法立て王よりあす  
 唯その國君の事とせむる二十余年あつた  
 其君あり時小王君 邦の使とあつて位を罷るを  
 皆その四好と修む 邦辭しむる 世と少くは實  
 正保四年丁亥六月九日の事也

○ 意太理亜国溫泉

意太理亜ハ改邏巴の南海小あ 其地勢山巖險  
 飛樓湧殿金碧相映一寶貫小天下第一の地なり  
 其俗銅鐵法若の細工ありて巧也を造る人未  
 其工藝と字ふけ国大山ありて其山巔より水湧出  
 其雷のありて數百里小字ゆ又溫泉ありて沸ある  
 其高き丈餘人ありて湯ありて其地なり

○ 意太理亜国邏城

邏馬ハ即意太理亜国の都なり石累て邏城とほ  
 其城は周圍十八里あり王の居する所也金殿玉堂







高くして最宏麗なる立国以來一千三百八十年  
國中災なり人さうんにして天地の生する所のも地一  
や〜てり〜いふりなり〜實心天下第一の国也

和蘭産物圖考卷之二終

和蘭産物圖考卷之三

勢州 藤元良 校補

○冬至日短

莫斯科未亜国其地夜なうく昼も〜日  
の止る事よやく二時氣候極寒室宇もく  
火を引て温む様ゆ〜厳寒小何〜り血脉と  
も小凍〜温室小入らされ身鼻墮也外〜  
来者ゆきハ先湯を以て其軀を〜く更



小生るを待て室小入魚一八月四月のあつて皆  
 来衣とさるけ国の人長大ありて腫緑なり鼻  
 なるふしを好友多し老のそことし赤一頂上及  
 軀小鞆の皮故なる此産するとの琥珀雲母華  
 の軟くあり大なる産り國王の誕生日の是  
 と撞三十人にて撞鳴也王中くを人字文成  
 勉くそ餘の人ハ字文と禁中又長さ四丈の  
 石火矢あつて一度に燦燦或石成入と子

○四元行

莫卧爾国の人髪赤よりて腫緑之也男女

テニ 亦 呼

皆白布を以頂纏纏衣小領なり密袖なりけ  
 此乳香木香没藥安息香檀合油製驢四  
 黄連多し人死するるとさ小名ハの生て常行する  
 不へそ屍を焚ける也此を四元行と云

此北衣の印度の北更小莫卧爾と名くいまこ  
 せ始むる所と不詳四元行の事ハお毛雜話小  
 番一凡へ昔るらゆふこ小略也

○巨鳥異獸

印第亜の地ありて大なり西洋諸番の會也  
 巨鳥ありて吻能百毒を解一吻の重千金

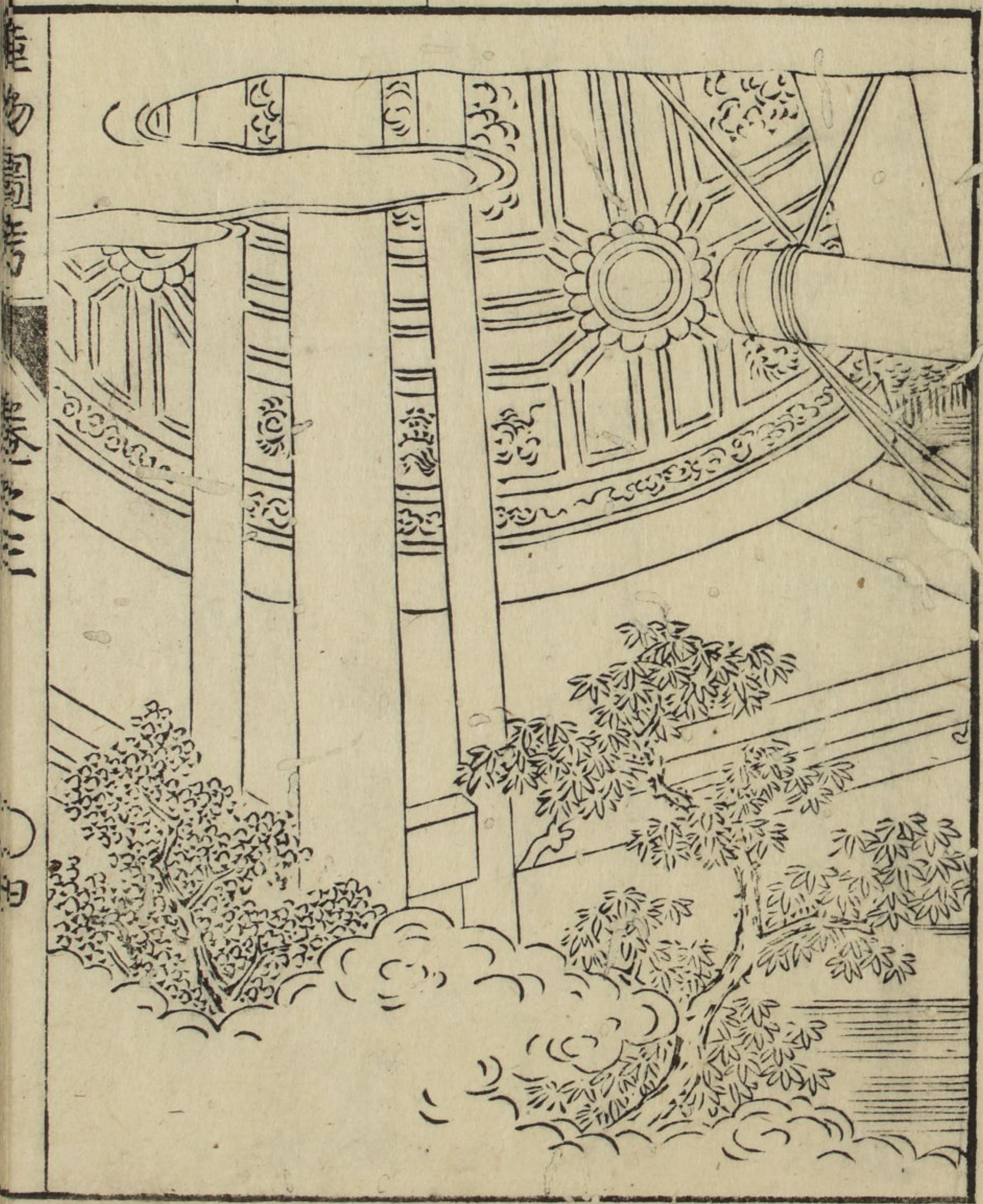


象ゾウは人の言を不ま信ま知まりて是こゝに命いのちを失うはれし物を  
 負おて泉いづみの石いしを以もつて不た変ま化ま國くにの象ゾウを以もつて  
 踏ふみつく伏た其こゝ地ち又また毒どく蛇へびを以もつて泉いづみを以もつて毒どくを  
 染ぬる人ひと畜ちくけ水みづを飲のみ即すなは時とき小こ死しといふ  
 又また獸けあり獨どく角かくと名なく毎まい日にち角つのを以もつて其こゝを以もつて杖つゑを  
 畜ちく多たの獸けを以もつて飲のみ毒どく小こ死しといふ  
 又また牛うしあり大おほなる事こと象ゾウの如ごとく一いの角かくを生なま  
 一いの鼻はなの上うへ小この如ごとく一いの頂たて牙はあり骨せの皮かわ鏡かがみ甲かぶの如ごとく  
 頭かぶ大おほ尾おしとトシ能よく此こゝ中に飛とぶ鳥とりを以もつて數かず十日じふにち  
 百ひゃく獸け皆みなおとす伏ふ象ゾウと虎とらと小こを以もつて其こゝを以もつて必かなく是こゝ

と逐おて殺ころす其こゝ中ちゆうに肉にく皮かわ角かく牙は其こゝ中ちゆうに藥いしと名なを  
 西洋せいようと名なす貴き重ちゆうと名なす  
 又また猫ねこあり肉にく翅はねありて能よく飛とぶ蝙蝠ふふ蝠ぶつの大おほさの如ごとく  
 西洋せいようと名なす漢かんより西あ亞あ弗ふ利り加か洲しゅう歐おう羅ら巴ぱ洲しゅう乃なり  
 もろくの國くにと名なす一いの如ごとく也なり  
 ○石いし人ひと  
 納の多た理り亞あ國くに石いし人ひとあり礼らいを避さて穴あな小こ居い一い後のち室むろを  
 氣き小こ凝こて化かして石いしと名なすといふ萬まん國くに新しん話わ小こ見みん  
 昔むかしより小こ死しといふ



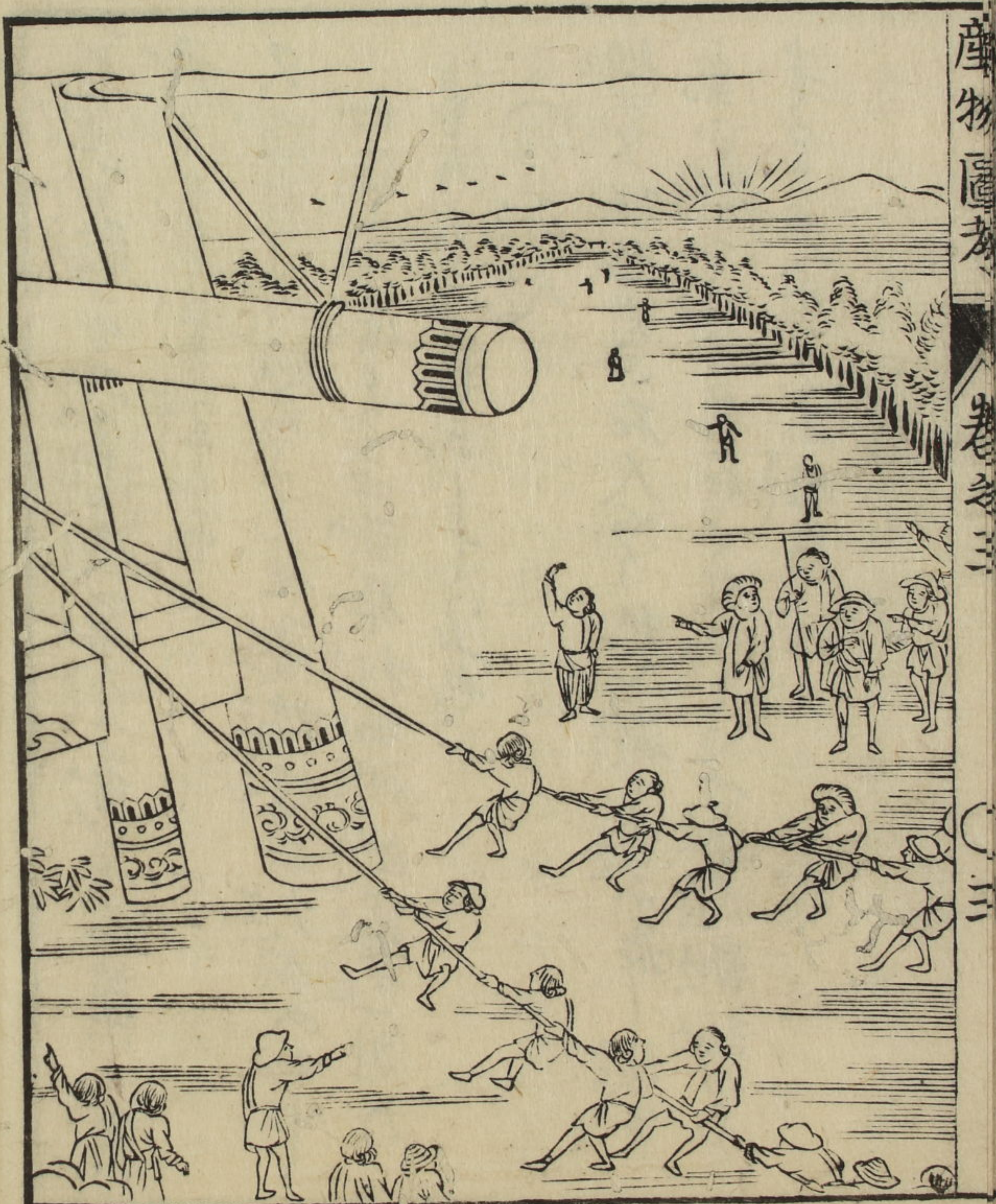
三十人  
大鐘也



鐘物圖考

卷之三

三



鐘物圖考

卷之三

三



○人異

韃而韃の人性勇ま好痛を忍死せしが軀辱とて  
馬肉を嗜む馬頭を以て終末とて貴人の食は  
食するをと湯熱才常に麻の皮を蒙り地蟻  
蜂とよらこんで食す

又人の身小し羊の足なりとのあり

又長人強確一確三丈氣候極寒を夏月層氷

こと二尺

北地亞細亞の東北あり至最大小して東北ハ大  
海小く西ハ歐巴小く南ハ支那莫風

畫呼  
ハル  
ハル

兎等の地と連接を大山とて大河をくはるとも也  
冬分る海なりなりといふ

○把雜爾

勃泥國獸あり把雜爾と名く羊麻ふ似きり腹  
の内小一つの石をせしむる而痛を療す極貴  
なり國王を以て利とす

北地亞細亞の中北大島より瓜哇の東小あり  
氣候極熱小して人の面をかくらる

○獨角獸

印度國獨角獸を産す形大なりて馬のごとく



かろく毛を黄みして頭小角あり長より四五尺  
 之を至て明なる飲器小作りてよく百毒を解  
 其銳く大獅小觸てあやうして樹小觸をハ  
 菊出まで互て獅の為小斃

○小自鳴鐘

熱爾馬尼亞国の人細工をて精巧也奇妙なる器  
 と制をく戒指の中小一の自鳴鐘や一の  
 鐘と係置て連發ることや數十

○龍身石

請厄利亞国極石ありよく聲を阻長きより七

重  
 ゴル  
 即  
 印  
 国  
 フイユ  
 ヤ

刺  
 語  
 天  
 ヤケ  
 ア

エ  
 ラ  
 ン  
 ン

丈高より二丈石を隔て、大銃を發せとも不聞  
 又湖あり長事百五十里廣より五十里こり  
 三奇事あり一ッ小魚ありといふ其表なり皆鱈  
 翅を二ッ小天静小して風をゆゝ忽ち浪あつて  
 亦を破壊を三ッ小小嶋あり根をじ風小よりつて  
 移動人々小居て其草木極茂滋牛羊麻  
 系と息て甚多し

此国西洋中の最大嶋小して北極出地五十度  
 より五十六度小む其土人標桿小して智者  
 其誠をよし諸藝を小純長せうといふ



又嘗あり死する者と葬るるをせよと只は屍  
 と山林に置ゆ百年不朽は地鼠絶なり他所の  
 鼠を捕来ては嶋に置るところハ必死といふ  
 又嘗ありこの地の人長大なり多力遍身毛あり  
 て後れこと一冬月の間皮のこけて行路工作ま  
 蛇を以てとふ

○亞既刺

利未亞國百獸あつまる不皆異類お合して奇  
 形異状絶獣と産す鳥あり亞既刺と名百鳥  
 乃王也羽毛の色黄黒にして高さ二三尺斗首小冠

あり塚釣て鷹鳥のことく極高く飛峻山の石穴  
 小巢とよみそを生て日輪は見えし目瞬せ  
 されは是をぬむ性執鳥猛く羊鹿百鳥を攫く  
 食す毒蛇くくそ子を害すといふ先一種石とた  
 はてて巢の多しとく蛇毒遂解す  
 又山狸あり鹿射小似たり腋後小一肉囊あり香  
 満きハ病石とみ蛇香と剔出す三種香油のこと  
 と黒く能身の病治療すは美羊と産る尾重  
 こと十斤小味にて美なりといふ





鞋靴人の頭絶  
而馬のを不





○騾能傳種

厄日多國此女人嘗以一乳養三四の子と云ひあ  
て、若て奇なりとて此騾と種と傳る騾駒と  
生よ

此地開闢より必来る際なり國中に河あり  
て子イルといふは河南より北に流れて地中海に  
入る之は国土地豊饒なり草木百果茂盛  
なりよと天文の字に達也

○亞爾加里亞

莫訥木太彼亞國象と産て極大なり一牙重の

二兩斤のものあり獸の甲楯のあととく亞爾加里亞と  
よ尾に汗あり極香なり汗を盥ふたると木に沾  
ると乾乾し刀を以て削奇香とならん

○無核果

聖多默嶋百果其産也ことく核なし  
け因印度の東にありて暖國也

○樹膏

白露國に樹あり脂膏をせし極香烈拔爾撒  
摩と名くもろくの傷損小ほくハ一晝夜の  
ちに肌肉復合て故のことと痘瘡小塗て之癒つる也



屍シ不塗フく十年腐クとよ

采サイ賢ケン異イ言ガンを聞クく小白シロ而ニ路ロの地チ智チ里リ乃ハ地チ小

乃ハ其ノ西ニ即チ大ダイ海カイ也ナリ此ノ地チ耕ケイ種シュを去クる以テ自ジ菓カ

蔬ソ多ク一ニ人ニ皆ニ是トを以テ産シく香カウ樹ジュ産シく

ハ巴ハ爾ニ波ハ女メ摩マ樹ジュ樹ジュ油ユを生シル始ハ刀タウを以テ是

を割ク則チ脂アヒ膏カウを出ス極ク香カウ烈リョウ也ナリと

○鳥トウ卵ラン

白露ハク国クニを名ナる馬バと名ナく最大ダイなる頸ケウ長チヤウく足

た一ツ翼ツバ翎レイ美メイ麗レイなる飛トビこことあつて足アシハ馬バ乃

蹄ヒツの如ニ能ク走ス馬バも是ト不レ及ズるあつて卵ラン盃サイ器キ

小コ作スるべし今イマ蚕サン船セン市シを名ナる龍リヤウの卵ランといふ

即チは物モノ也ナリ

又マタ極ク大ダイ多クあり名ナ左サ慕モといふ蚕サン名ナ不レ詳チヤウつと

ゆつて飛トビこことあつて其ノ足アシ馬バのこことし其ノこと最

まじやうなり馬バも能ク及ズること不レ能ク尋ズる厚コウたよ

一ツて杯サイおなよと魚イサ



無根樹



產物圖考

卷之三

十一

石



產物圖考

卷之三

十一



○懶面

種木國一獸あり懶面と名く甚猛なり瓜瓜分指  
のことも鬃ひしやうの鳥の如く腹たきく地はく新あらたこ  
りつれ一月と法くして百歩ふ不踰こみずとよ海うみこんて  
樹こと食せ亦毎日小して樹下もと下る人樹こより  
て取之とれ  
又獸あり前羊まへひつを、狸ねこのことく後羊あひひつ分ハ狐きつね乃如  
人の足あし小して身みなり腹はらの下に房ふらあり張はべく  
食せへ一恒とこ小を子こ成なり其中そのちに網あみ乳ちと欲ほとさハ  
出いせ也

采さい覧らん無い言げんを聞きく伯はく西せい兒いハ種木國也とい人  
房室ふしつと作つくれん地ちを用もちいて完かん成じやう作たくて居ゐる人の肉  
を好このみ食くむ者もの田た力りきと食くて女にと食くむ者もの多おほくの  
毛けを以もて衣いふ織オリる地ち固かく高山こうざん平野へい荒あ濶くわ也  
柳樹やなぎ大おほなるもの林はやしを成なりて人ひと臥ふし床とこ褥まくらなし  
舟ふねく繩ひも成なり結むすて網あみとなしかたし高たかくし中なかに  
窪くぼし両頭りやうとう本もとを以もて是こゝを樹こち中なかに偃よ臥ふす行ゆ  
とこ、即すなはち轎こしやうとて也なり也なり地ち亞細亞あしやの南海なんかい乃すなはち中なか  
ありて東北とうほくの海うみ小阻せき也なり大陽たいやう正ただしく上かみを過する已まの  
時とき後ごを影かげ南なんにあり秋あき分ぶん已ま後ごを新あらた北きたあり



氣候極熱（ききう）人皆裸躰（ひだり）其色赤（あか）或黑（くろ）  
俗暹羅（しゐんら）と云（い）也

和蘭産物圖卷之三終



